

『むべなるかな』

《発行》令和7年6月／大嶋・奥津嶋神社氏子総代



【池鯉鮒神社手前の大杉】

本殿や境内の前には池、裏手には静かな森——我々の祖先は、鎮守の森を中心のよりどころとし、大木には神が宿ると考えてきました。そんな風景が今も残る神社は、決して多くはないかもしれません。

子どもの頃、池ではゼゼラやボテジャコを釣り、森ではセミの誕生に見入り、シダが繁る山を駆け登って遊んだものです。自然とふれあうことが、暮らしの中にごく当たり前にあった時代でした。

神社は、特別な場所というより「自分たちの場所」だったのです。

毎年行われる春の祈年祭、初夏の早苗祭、秋の新嘗祭。これらの神事には、山から田へ、田からまた山へと巡る神さまの存在が込められています。

自然と人がともに生きる——そのつながりを神に感謝する大切な節目でもあります。

時代とともに、環境の変化によって自然との距離が少しずつ遠のいているようにも思います。でも、神社の森に立つと、どこか懐かしく、心がすっと落ち着くような気がしませんか。

お参りとは、ほんの短い時間でも日常から一歩離れ、静かに自分と向き合い、感謝を伝える行為です。神さまに見守られているという安心感は、思った以上に私たちの心を支えてくれます。

この神社、この森は、いつまでも私たちの拠りどころです。どうぞ気軽に立ち寄ってみてください。季節の移ろいのなかで、きっと何かが心に残るはずです。



【豊穣を願う早苗祭】

今年の早苗祭は、天候の都合で、湯神楽に代わり「花湯の儀式」が拝殿で奉納されました。

宮司が奏でる太鼓の音が厳かに響くなか、巫女の舞が静かに始まります。

ひらひらと舞う紙片に、無事に田植えを終えた感謝と、秋の実りを願う祈りが、そっと託されているようでした。

近くで見る舞はひとときわ可憐で、音と舞が相重なり、神聖な気配が満ちて印象に残る早苗祭になりました。

7月の予定

- ・7月4日（金曜日） 百々神社 月例祭 午前10より御祈祷受付

